

## [成果情報名]ハウス栽培において品質が優れるモモ早生品種「さくひめ」の特性

[要約]慣行加温体系のハウスモモ栽培において「さくひめ」の収穫は「日川白鳳」と比べて8日程度早く、5月上旬となる。果実重が250g程度と「日川白鳳」と比べて大きく、食味も優れる。果頂部の突出程度は「日川白鳳」と同程度であるが、核割れの発生が少ない。

[担当]山梨県果樹試験場・栽培部・落葉果樹栽培科・芦澤勇太

[分類]技術・普及

---

### [背景・ねらい]

モモ「さくひめ」は、農研機構果樹茶業研究部門がブラジルから導入した低温要求時間の短い品種「コラル」や「ちよひめ」などを交雑して育成した品種である(図1)。本品種も低温要求時間が短く、温暖化に対応した品種として、ハウス栽培への導入が期待されている。そこで、本県のハウスモモ栽培基準に基づく慣行加温体系における適応性を明らかにする。

### [成果の内容・特徴]

1. 慣行加温体系でハウス栽培を行った「さくひめ」の満開日は2月15日で、「日川白鳳」と比較して13日程度早い(表1)。
2. 満開から収穫までの成熟日数は78日である。収穫始めは5月上旬で「日川白鳳」より8日程度早い。また、樹勢はやや強く、結実良好である(表1)。生理落果は「日川白鳳」と同程度で少ない(データ略)。
3. 果実重は245gと「日川白鳳」と比べ大きい。糖度は12.5°Brixと高く、やや酸味を感じるが、食味良好である。果実果頂部の突出程度は「日川白鳳」と同程度である。着色は良好であり、核割れの発生は少ない(表2、図2、図3)。
4. 果実の重量別構成比率は、250g以上が3割程度で、「日川白鳳」と同程度である(表3)。

### [成果の活用上の留意点]

1. 本成果は、果樹試験場(標高440m)の硬質ビニールハウスにおいて、7.2℃以下の低温遭遇時間が1,000時間を経過してから加温した、「おはつもも」台、斜立主幹形整枝の樹を用いた結果である。本試験期間である2019年~2021年の3カ年の加温開始日の平均は1月18日である。
2. 「さくひめ」の低温要求時間が短い特性を活かした、早期の加温については検討中である。
3. 樹勢が強く、新梢の繁茂や着果による枝の下垂により、樹冠内部が暗くなりやすい。そのため、新梢管理や枝のつり上げなどを行い、樹冠内部の明るさを確保する。
4. 既存品種と比べ開花時期が早いため、栽培管理が遅れないように注意する。

### [期待される効果]

慣行加温体系のハウス栽培において、5月上旬に成熟する品質の優れる品種として、県内の施設栽培への普及が期待できる。

[具体的データ]

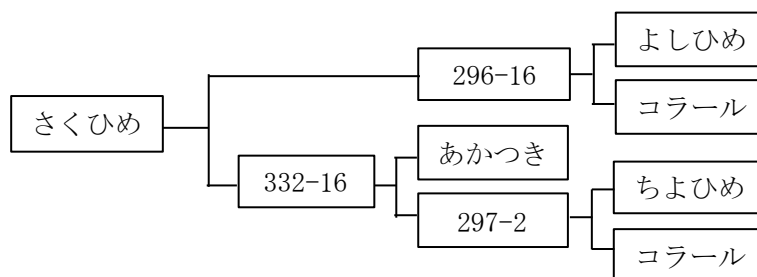


図1 「さくひめ」の系統図

表1 慣行加温体系における「さくひめ」の生育特性 (2019~2021)

品種	樹齢	満開日	収穫始め	加温開始からの日数		成熟日数	樹勢	結実率 <sup>z</sup> (%)
				開花始め	収穫始め			
さくひめ	5~7	2/15	5/4	22	106	78	やや強	91.6
日川白鳳	7~9	2/28	5/12	34	113	73	中	54.0

加温開始 平均 1/18(2019 1/21, 2020 1/21, 2021 1/14)

z)開花期に貯蔵花粉を用いて人工受粉を3回実施、結実率は2021年のみ

表2 慣行加温体系における「さくひめ」の果実品質 (2019~2021)

品種	樹齢	果実重 (g)	硬度 (kg)	糖度 (°Brix)	酸度 (pH)	着色 <sup>z</sup> (指数)	食味 <sup>y</sup> (指数)	突出 <sup>x</sup> (指数)	核割れ
さくひめ	5~7	245	2.2	12.5	4.4	4.0	3.9	1.3	極少
日川白鳳	7~9	224	2.0	12.4	4.6	4.2	3.8	1.2	少

z)1(微)~5(多)、y)1(不良)~5(良)、x)0(正常)~4(突出)

表3 慣行加温体系における「さくひめ」の果実重別構成比率(2021)<sup>z</sup>

品種	250g以上	200~250g	170~200g	170g未満
さくひめ	30.2 %	41.9 %	17.3 %	10.6 %
日川白鳳	26.9 %	46.2 %	19.2 %	7.7 %

z) さくひめ n=179、日川白鳳 n=130



図2 ハウス栽培の「さくひめ」



図3 果頂部の突出程度  
(左「さくひめ」、右「日川白鳳」)

[その他]

研究課題名：モモ優良品種の特性調査と栽培技術の確立 (第5次)

予算区分：県単

研究期間：2018~2020年度

研究担当者：芦澤勇太、池田博彦、富田 晃、萩原栄揮